

妙心寺団体参拝の募集

前回もお知らせしましたが、左記の日程で本山妙心寺に参拝します。是非この機会にご参加下さい。

令和8年6月13日(土)

午後4時 妙心寺花園会館集合

14日(日) 午前11時頃解散

参加費 1万9千円・1名につき

(1室2名利用の場合)

最低催行人数 10名以上

本山への交通機関やおすめの観光コースなども紹介します。お気軽にお問い合わせ下さい。



實相寺 花園会報

令和七年
十一月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第199号

お寺の掲示板

「これは一遍上人語録の中でも最も重要な言葉である。釈尊も孤独であった。イエスも孤独であった。孤独がこの人たちを偉大にした。

わたしは宇宙そのものが孤独な存在だと思う。

わたしはそういう孤独を、この人たちの孤独と言っ

のである。人はこれをつかむことによって、三千世

界がひらけてゆく。そして、それが仏陀ぶつだとなり、

神の独子ひとりごとなる。」

『一遍上人語録』

捨て果てて』より

坂村真民さかむらしんみん

大蔵出版

生ぜしも

ひとりなり

死するも

独なり

されば人と共に

住するも独なり

一遍上人語録

「父母恩重經」を読んで⑨

この後、「懷胎守護の恩」など具体的な十種の恩が説かれますが、内容はこれまでと大差ないので省略します。今回、なぜ『父母恩重經』を取り上げたかという、初回に述べたように、老親の立場でこのお経を読むと何が見えてくるか？を確認したかったからです。

そこであらためて、このお経の中で語られている「親の姿」を確認してみよう。

- 1 父に慈恩あり、母に悲恩あり。
- 2 母は自らの衣食を子に与えた。
- 3 母は外出しても幼子が気がかりで仕方ない。家に帰って我が子の喜びを我が喜びとした。

- 4 親が、火や刃物など危険な物の扱い方から、毒や薬の見分け方まで、身を以て教えてやった。
- 5 出先でご馳走を貰えば、我が子に持ち帰っていたが、たまに土産が無い時、子は泣いたり怒ったりして親を責め立てた。
- 6 長じては友人の前で恥をかかない様、親はボロを着ていても、我が子の身なりは調えてやった。
- 7 息子は結婚すると嫁と二人だけで楽しく自室で過ごしている。
- 8 老いては子や嫁だけが頼りなのに、日に一度も顔を見せない。
- 9 連れ合いに先立たれてからは、一人冷たい部屋で過ごすばかりで、家庭に何の温かさも回らんもない。

10 ちょっと用事があって息子を呼ぶと、目を三角にして怒る。嫁も孫もそれを見て真似をする。

11 急用があつて「早く来て！」と呼んでみても、十回呼んでも九回来ず、やっと来てくれたと思つたら、

「老いぼれて長生きするよりも、早く死んだ方がいい」と罵られる。

概ね以上が『父母恩重經』に描かれている親の姿ですが、どうお感じになりますか？

正直、私は自分の若い頃の態度であると反省すると共に、子供達が巢立っていった、現在の淋しさにも通じると思いました。

この『父母恩重經』は七世紀に中国で作られ、我が国では江戸時

代に大變流行したお経なのですが、千四百年前も、三百年前も、現在も人間の営みは本質的に変わらないということを感じますし、同時に大昔から「こういう風に親を粗末にしてはダメだよ」と諫められてきたということでしょう。

数十年前までは三世代同居があたり前でした（とはいえ戦後80年も経つ訳ですが）。「老いては子に従え」の諺もあるように、当然そこには老いたら、老いたなりの生き方があったのだろうと思います。しかし戦後の高度成長期に核家族化が進むと共に、今では幾つになっても変わらないことが幸福だとされています。（続）